

令和2年度第2回臨時理事会議事録

日時 令和2年6月20日(土) 10:30~12:20

会場 都市センターホテル 5F オリオン

Webとのハイブリッド開催

出席者

理事長：木村 正

副理事長：青木 大輔、加藤 聖子

理事：池田 智明、榎本 隆之、大須賀 穰、岡本 愛光、亀井 良政、工藤 美樹、
小林 陽一、古山 将康、鮫島 浩、柴原 浩章、生水 真紀夫、杉野 法広、関沢 明彦、
竹下 俊行、永瀬 智、藤井 多久磨、前田 長正、万代 昌紀、三上 幹男、宮本 新吾、
八重樫 伸生、渡利 英道

監事：櫻木 範明、平松 祐司、藤井 知行

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、宮城 悦子

専門委員会委員長：藤原 浩

第28代AFOG会長：落合 和徳

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：矢内原 臨

幹事：岩佐 武、岩瀬 春子、上田 豊、馬詰 武、木村 文則、桑原 慶充、小出 馨子、
小松 宏彰、近藤 英治、佐藤 健二、関根 正幸、田中 博明、寺尾 泰久、土井 宏太郎、
徳永 英樹、永松 健、平田 英司、松岡 歩、矢幡 秀昭、山上 亘

陪席：古宇 家正

議長：光田 信明

副議長：久具 宏司、小谷 友美

弁護士：平岩 敬一

名誉会員：中林 正雄

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

午前10時30分、理事長、副理事長、理事25名全員が出席し定足数に達したため、木村正理事長が開会を宣言した。木村正理事長が議長となり、議事録署名人として木村正理事長および櫻木範明監事、平松祐司監事、藤井知行監事の計4名を選出し、これを承認した。

I. 令和2年度第1回理事会議事録の承認

令和2年5月30日に開催された令和2年度第1回理事会議事録を承認した。

II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総務 (青木大輔副理事長)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ①村山行信功労会員 (埼玉) が4月19日にご逝去された。
- ②竹村喬名誉会員 (大阪) が4月29日にご逝去された。
- ③村上俊雄会員 (代議員:長崎) が6月9日にご逝去された。

(2) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①会議開催

子宮頸癌取扱い規約改訂 第4回編集委員会 (ウェブ会議)	7月28日【予定】
------------------------------	-----------

(ハ) 周産期委員会

- ①「これまでの基準や用語を見直す小委員会」において、本邦における妊婦の至適体重増加に関するアンケート調査を実施するため、日本産婦人科医会に調査協力 (医会登録施設データ提供) を依頼した。 [資料:総務1]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

書籍頒布状況 (6月11日現在)

	5/20 理事会報告	～6月11日	合計
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステリン配合薬ガイドライン 2015 書籍版	6,428	26	6,454
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	3,481	31	3,512
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用 ID・PW 付(ダウンロード済み)	1,142	28	1,170
女性アスリーートのヘルスケアに関する管理指針	1,030	15	1,045

(3) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の発信について

- ①会員に対し実施した COVID-19 に関するアンケート結果を、まずは会員限定でホームページに掲載した。
- ②日本産婦人科医会、日本産婦人科感染症学会と合同で、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応指針 (第四版) をホームページに掲載し、会員へ周知した。

(4) 幹事交代について

(解委囑)

平田英司先生: 学術委員会、渉外委員会、広報委員会 (主務幹事)

(委嘱予定)

古宇家正先生：学術委員会、渉外委員会、広報委員会（主務幹事）
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅱ. 官庁関係等〕

(1) 厚生労働省からの会員周知依頼について

① 本会ホームページに掲載し、会員に周知した

部署	内容	資料
子ども家庭局 母子保健課	「母子保健事業等の実施に係る自治体向け Q&A (令和2年6月2日時点)」について	総務 1-1
子ども家庭局 母子保健課	新型コロナウイルス感染症に伴う乳幼児健診の実施に係る周知について	総務 1-2
子ども家庭局 母子保健課	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う令和2年度における「不妊に悩む方への特定治療支援事業」の所得要件の取扱いについて	総務 1-3
子ども家庭局 母子保健課	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う令和2年度における「不妊に悩む方への特定治療支援事業」の所得要件の取扱いについて	総務 1-4
新型コロナウイルス感染症対策推進本部	人材確保にかかる取り組みについての周知のお願い	総務 1-5
子ども家庭局 母子保健課	「母子保健医療対策総合支援事業における令和2年度第二次補正予算に係る Q A 等について」	総務 1-6

木村正理事長「産科や不妊症についての通知なので、ご参照いただきたい。また、新型コロナウイルス感染症を心配する妊婦さんから申請があった場合の、職場の配置転換、時差通勤、休業などについて、母子保健カードに記入することの周知について改めてお願いしたい。」

(2) 厚生労働省雇用環境・均等局より、令和2年度母性健康管理推進支援事業「働く女性の身体と心を考える委員会」への委員推薦依頼を受領した。本会から木村正理事長を推薦したい。

[資料：総務 1-7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 国立成育医療研究センター

国立成育医療研究センター竹原健二先生（研究代表）より、ゲノム編集技術に関する Web アンケート調査への協力依頼を受領した。Web アンケートは8月実施予定である。[資料：総務 2-1、2-2、2-3]

木村正理事長「会員向けメールで周知して、各会員が Web サイトに入って回答いただくようにしたい。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本外科学会

日本外科学会 CST 推進委員会の委員について、本会は国立がん研究センターの加藤友康先生を引き続き、委員として推薦した。

[資料：総務 2-4]

(3) 日本医学会連合

日本医学会連合定時社員総会（WEB 開催）が6月24日に開催され、木村正理事長が出席する。

(4) 日本臨床外科学会

10月に開催される第82回日本臨床外科学会総会で、女性外科医の活躍推進に関するシンポジウムの企画があり、各外科分野の学会理事長（もしくは関連委員会を代表する先生）に本シンポジウムでの講演依頼があった。各学会における男女共同参画の現状とこれまでの成果および将来展望について紹介していただきたい、とのことである。本会からは、サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会委員の木戸道子先生にお願いしたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団

山口内分泌疾患研究振興財団より、2020年度研究助成金募集のお知らせを受領した。本会ホームページに掲載し、会員に周知したい。 [資料：総務3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

2) 会 計（池田智明理事） 特になし

3) 学 術（大須賀穰理事）

(1) 学術委員会

①「2020年度日本医師会医学研究奨励賞」推薦候補者について

理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼し、推薦期日までに2名の候補者推薦を受けた。日本産科婦人科学会より推薦できるのは各部門1名のみのため、学術担当理事による選考の結果、木須伊織先生（慶應義塾大学、基礎部門）を本会より候補者として推薦したい。

[資料：学術1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②他団体からの受賞候補者推薦依頼（科学技術分野の文部科学大臣表彰 [科学技術賞、若手科学者賞、研究支援賞]、上原賞、神澤医学賞）を受領した。 [資料：学術2-1、2-2、2-3]

③2019年度第4回理事会（2020年3月7日）で承認いただいた「令和2年度 教育奨励賞の推薦および応募について」の応募者資格を「応募する年度の末日をもって」から「2021年3月31日時点で」と記載を修正した。 [資料：学術3]

(2) プログラム委員会関連

①第73回学術講演会プログラム委員会

2019年度第4回理事会（2020年3月7日）で承認いただいた、第73回学術講演会の齋藤滋先生の特別講演について、課題名の一部修正を行いたい。

(課題名) 「周産期の三大疾患である流産、早産、妊娠高血圧症候群の病態を免疫学的立場から
解明する」 [資料：学術4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) 編集 (加藤聖子副理事長)

(1) JOGR 投稿状況 2020年6月12日現在

	2018	2019	2020
Pending / Withdrawn	39	53	371
Accepted	304	258	62
Rejected	1213	1194	639
Grand Total	1556	1505	1072

(2) 和文機関誌への新規広告掲載希望について

申し込み会社： シンフォニア <https://www.symphonia-inc.com/>

掲載希望広告： 診療支援ソフト Eveforma <https://www.symphonia-inc.com/official/Eveforma/>
広告PDFを作成中とのこと

加藤聖子副理事長「妊婦さん向けの診療支援ソフトの会社で、内容は問題ない。いくつかの大学でも
これを利用している。新規広告掲載を応諾してよいと考える。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) 渉外 (岡本愛光理事)

(1) 2021年表彰の海外名誉会員候補者について

[資料：渉外1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

藤井知行監事「海外名誉会員候補者として、AOFOG関係の方はいないのか。」

落合和徳AOFOG会長「過去にAOFOG会長を務めた方が必ずしも本会の名誉会員になるわけではないが、
前回の会長は現在も役員であり、また前々回の会長はすでに本会名誉会員なので、現段階で候補に
なる方はいない。」

(2) TAOGからご寄附いただいた30,000枚のマスクについて、本会HPより申し込みのあった新型コロナ
ウイルス陽性者の受け入れを表明した分娩取り扱い施設へ発送した。

(3) TAOGより、5万枚のマスク寄附のお申し出を受け、本会としてご厚意をお受けしたい旨TAOGに
回答したところ、10万枚の寄附があった。

藤井知行監事「これへの応募件数はどのくらいあるのか。」

岡本愛光理事「昨日までで190件を越えている。」

藤井知行監事「2回目の募集は枚数制限はないのか。また分娩取扱施設でなくても応募できるのか。」

岡本愛光理事「枚数制限はなく分娩取扱施設でなくてもよいが1回目の受領施設は応募できない。」

(4)KSOG より、9月25-26日に韓国ソウルにて開催の106th Annual Congress of Korean Society of Obstetrics and Gynecology への日本人参加の可否についての問合せがあり、9月の韓国渡航について日韓両国において規制(地域により施設ごとの規制を含む)が課されていない状況であれば参加したい旨回答した。

(5)AFOFG Action Plan meeting (2020年11月7日、於:東京)について、AFOFGの要請を受け5月に提案を提出したが、6月にAFOFGより、新型コロナウイルス感染状況による海外渡航に関する規制が予測できないため、2020年内のAFOFGの国際会議は開催しないとの連絡を受けた。

落合和徳 AFOFG 会長「第2波の可能性もあり海外渡航再開は難しいであろうということで、本年に予定されていた国際会議は行わないことにした。」

6) 社 保 (万代昌紀理事)

(1) 会議開催

第3回婦人科特定疾患治療管理料運用WG

6月10日(水)

(2)ドロスピレノン、エチニルエストラジオール ベータデクスの月経前不快気分障害(PMDD)の適応について、厚生労働省に要望書を送付した。 [資料:社保1]

万代昌紀理事「本会、日本産婦人科医会、日本女性医学学会共同で公知申請を行った。」

(3)令和4年度診療報酬改定提案について、11月に外保連でまとめていく予定なので、ホームページで会員の意見を募集した。(〆切:6月30日)

(4)「器質性月経困難症に対する適正なホルモン療法等に係る研修」のe-learningについて、7月1日より申し込み、および受講開始の予定である。 [資料:社保2]

万代昌紀理事「9月までに研修を終えないと管理料を取れないので、それまでに完了いただくようにアナウンスしていく予定である。」

工藤美樹理事「これは施設で一人、研修を受ければよいのか。」

万代昌紀理事「管理料を取る先生は全員受けていただく必要がある。」

大須賀稜理事「研修を受けた先生が普段診察していて、たまに研修を受けてない先生が同一患者を診察する場合にどうするかなど、線引きが難しいのではないか。」

万代昌紀理事「保険の審査が入った時に産婦人科の管理が問われることがないように、原則としては全員受けていただくべきだが、それが難しいとすれば実際に対応する先生が研修を受けて管理料を取るようになるのではないか。」

木村正理事長「大きな病院の場合は判断が難しい。今でなくて人事異動があつて研修を受ける必要が出たら、その時にe-learningを受けることはできるのか。」

万代昌紀理事「当面の間はe-learningは維持していくが、維持料がかかるので、たとえば2~3年経ったところで、学会での研修会に切り替えることはありえる。女性ヘルスケア委員会とも相談して進めたい。」

藤井多久磨理事「この資格には期限はあるのか。また異動した先でも使えるのか。」

万代昌紀理事「期限は設けていない。人についてくるので異動先でも使える。」

藤井知行監事「学会としては、皆さん受けてくださいということで、あとは施設の判断でよいと思う。」

(5) 令和2年度診療報酬改定に関する外保連緊急要望について

万代昌紀理事「この4月に診療報酬改定があったものについて不服があれば外保連でまとめて厚生労働省に提出する仕組みで、本会から傍大動脈腹腔鏡下リンパ郭清術を不適合ということで出すことにした。そこからの展開は現在のところ不明だが、厚生労働省にもプッシュしていきたい。」

(6) ロボット手術のNCD登録について

万代昌紀理事「NCDの前向き登録は7月1日から可能になる。ただ産婦人科はNCDを使ったことがないのですぐに前向き登録を行うのは難しいため、2~3か月間は後向き登録で可とし、その間に加入手続きを行い、慣れたところで全症例前向き登録していただきたい。そうしないと保険対象にならなくなる。子宮体癌と良性子宮全摘のロボット手術とRSCが対象である。」

加藤聖子副理事長「4月からの分も後向き登録するのか。」

万代昌紀理事「7月1日からの分を全例登録するように日本外科学会と交渉中である。」

宮城悦子特任理事「NCDに登録する時には、病院長の許可が必要になるのか。」

万代昌紀理事「総合病院には通常、外科があるのでNCDに加入している。そこに産婦人科が加わるということになるか、別途許可が必要になるかは施設の倫理委員会などの判断になると思う。」

7) 専門医制度 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

2020年度第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議	6月21日【予定】
----------------------------------	-----------

(2) 2020年度専門医認定二次審査について

[資料: 専門医 1-1~1-4]

八重樫伸生理事「今年度の専門医認定二次審査については、アンケートを取って都道府県ごとに行えないかを具体的に検討してきたが、実施可能であるとの結論になった。全体で445名が受験予定である。費用については、例えば委託費として各会場あたり10万円支払うことを検討している。例年、二次審査の費用は1,000万円程度かかっているが、それをやや上回ることにはなりそうな状況だが、具体的な試算ができたところで相談させていただきたい。」

藤井知行監事「大阪は会場が1か所にまとまっていて会場費用163万円である。大阪のスケールで1か所にまとめる必要があるのだろうか。」

古山将康理事「例年、西日本全体で使用する会場を、そのまま大阪で使おうとしたためである。このままを進めるか検討したい。」

小林陽一理事「杏林大学は会場だが、自分の大学の医局員が試験を受ける場合、面接担当者は自大学の医局員であってもよいか。」

八重樫伸生理事「面接担当者には、受験生の所属する専攻医プログラムの基幹施設や連携施設に属していない第3者が1名いる必要がある。あとの1名は自施設でも構わない。」

(3) 日本専門医機構

① 会議開催

日本専門医機構 第3回基本領域連絡委員会 (プログラム、認定・更新等)	6月9日
日本専門医機構 定時社員総会	6月30日【予定】

8) 倫理委員会 (三上幹男理事)

(1) 会議開催

PGT-M 小委員会 (Web 会議)	6月 3日
子宮移植に関する小委員会 (Web 会議)	6月 26日【予定】
生殖に関する患者データ登録、調査について岩手医科大学との打合せ (Web)	7月 1日【予定】
PGT-M 小委員会 (Web 会議)	7月 6日【予定】
PGT-A 研究者打合せ (Web 会議)	7月 7日【予定】
令和2年度第2回着床前診断に関する審査小委員会	7月 21日【予定】
令和2年度第2回倫理委員会	8月 4日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録 (令和2年5月31日)

- ・ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：102 研究
- ・体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：620 施設
- ・ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：620 施設
- ・顕微授精に関する登録：589 施設
- ・医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：130 施設
- ・提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(3) 着床前診断に関する申請・認可について

- ・施設申請170件《承認138施設 (うち21施設は条件付)、照会13施設、審査中19施設》

[資料：倫理1-1]

- ・症例申請：959 例《承認 820 例、非承認 30 例、審査対象外 35 例、取り下げ 5 例、照会 62 例、保留 2 例、審査中 5 件》(承認 820 例のうち 120 例は条件付)

[資料：倫理 1-2]

(4) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査 (NIPT) に関する進捗状況について

三上幹男理事「前回の理事会で承認いただいた改定指針については、日本小児科学会、日本人類遺伝学会の理事会でも承認され『適切な形で支援を惜しまない』との回答をもらっている。日本医学会、日本医師会からもバックアップいただけるとの回答を得ている。この指針については今後、厚生労働省に相談に行く予定である。」

藤井知行監事「昨年、厚生労働省は同省が設定する委員会で検討するといっ、少し動いているようだが、それとの関係は大丈夫か。」

三上幹男理事「昨年は厚生労働省は『様々な議論があり待つてほしい』ということだったと思うが、その様々な議論をまとめたものを持っていくということになる。厚生労働省の委員会が了承しないと動けないということは変わらない。」

(5) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

- ①獨協医科大学産科婦人科 深澤一雄会員より、既に承認済みの研究で計画の変更申請があった、「大規模周産期データベースを用いた妊婦の感染症が妊娠経過に及ぼす影響の検討」について審査を行い、6月17日に審査結果を報告した。

[資料：倫理2]

- ②大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 上田豊会員より日本産科婦人科学会婦人科腫瘍

データベース使用申請として承認された、「子宮頸がん症例に対する手術療法・放射線療法（同時化学放射線療法）・化学療法の成績における年齢因子の影響の解析」について審査を行った。

③横浜市立大学附属病院市民総合医療センター総合周産期母子医療センター 青木茂会員より日本産科婦人科学会周産期データベース使用申請として承認された、「本邦の周産期登録データベースを用いた双胎妊娠における適正体重増加量の策定」について審査を行った。

④慶應義塾大学医学部産婦人科 田中守会員より日本産科婦人科学会周産期データベース使用申請として承認された、「大規模データベースを用いた低出生体重児分娩の原因検索」について、審査を行った。

⑤埼玉医科大学病院産婦人科 石原理会員より日本産科婦人科学会生殖に関するデータベース使用申請として承認された、「生殖補助医療における所得が治療内容および助成金利用に及ぼす影響の検討」について審査を行った。

9) 教育（関沢明彦理事）

(1) 会議開催

産科婦人科用語集・用語解説集第5版編集委員会	6月12日（WEB）
試験問題作成委員会	6月中に開催（ハイブリッド）

(2) 書籍頒布状況報告 2020年6月11日現在

	5/20 理事会報告	～6月11日	合計
産婦人科研修の必修知識2016-2018	1,115	14	1,129
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き	672	41	713
産婦人科研修の必修知識2016-2018+例題と解説集	665	8	673
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き+例題と解説集	789	8	797
うち必修知識ダウンロード	984		984
用語集・用語解説集改訂第4版（書籍版）	704	11	715
用語集・用語解説集改訂第4版（電子版付）	858	36	894
うちダウンロード済み	415		415
専門医試験例題と解説2016	1,334	25	1,359
専門医試験例題と解説2017	740	44	784
専門医試験例題と解説2018	1,311	45	1,356
専門医試験例題と解説2019	1,139	62	1,201

(3) 産科婦人科用語集・用語解説集改訂第5版について

①6月12日に編集委員会を開催し、杏林舎の提案・説明を受けた。前回同様、杏林舎に印刷のみ依頼するのか、編集業務もあわせ他社を考慮するのかなどを決定したい。

②各専門委員会から推薦を受けたコアメンバーも含め、今後のスケジュールなどを詰めていく。

(4) 専門医認定筆記試験について

COVID-19の感染拡大を防ぐためにWEB会議を開催したが、順調に作業を進めることができた。

(5) 産婦人科専門医のための必修知識について

杏林舎と調整をして予定通り9月には発刊すべく作業を進めている。

(6) 書籍の販売について

書籍の販売は、KaLib Store (杏林舎) を利用する場合と、直接購入希望を事務局に出される場合があるが、直接購入希望の際に書類の作成などでかなり細かい指示があり事務局としても1名で対応するにはかなりの時間を割かれることになるので、杏林舎でももう少し柔軟に対応することができないかを交渉していく。

10) 地方連絡委員会 (渡利英道委員長)

(1) 会議開催

令和2年度地方連絡委員会 (web 会議) 開催	7月29日 (水) 【予定】
--------------------------	----------------

渡利英道委員長「地方連絡委員会は、通常は学術講演会の際に行っていたが、今年は学術講演会がWEB開催、定時総会もハイブリッド型開催となったため、7月に単独でWEB開催することにした。」

III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (工藤美樹委員長)

(1) 会議開催

令和2年度 第1回広報委員会	7月29日 (水) 【予定】
----------------	----------------

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報1]

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について [資料：広報2]

(4) Human+/Baby プラスに関する小委員会

①5月末まで、HUMAN+の冊子販売数は累計約18万5千冊、アプリ版Babyプラスのダウンロード

数は累計約 44 万 1 千件である。

②産婦人科診療ガイドライン産科編及び婦人科外来編 2020 の発刊に伴い、Baby プラスの内容についても確認し改訂する。

③株式会社リクルートマーケティングパートナーズより、事業方針の変更を理由に Baby プラスの運営から離脱する旨の報告を受けた。 [資料：広報3]

工藤美樹委員長「リクルートから 8 月末で離脱したいとの申し入れがあった。権利や資産等はハーゼストに譲渡するとしているが、ちょうど関係を確認して契約書もしくは合意書を結び直したいと思っていたところなので、状況確認を進めたい。」

藤井知行監事「リクルートがなぜ事業譲渡するのかについて、リクルートに直接聞いておいた方がよい。収益は上がっていると思うのだが、どうしてなのか理由を確認してほしい。」

工藤美樹委員長「収益の内容については教えてくれない。」

藤井知行監事「共同で事業を行っているのだから、収益状況については教えてくれてよいと思う。」

小西郁生顧問「リクルートは妊婦さんを掴んでおり、同社と関係が繋がっていた方が妊婦さんからの情報を得やすい。できれば関係は続けてもらった方がよい。」

木村正理事長「リクルートは説明に来るとのことなので、その際に色々聞いてみたい。」

(5) 女性の健康週間事業

①会議開催

令和 2 年度 第 1 回女性の健康週間に関する小委員会	7 月 3 日 (金) 【予定】
------------------------------	------------------

2) 災害対策・復興委員会 (永瀬智委員長) 特になし

3) 診療ガイドライン運営委員会 (生水真紀夫学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2020」頒布状況について (6 月 11 日現在)

	5 月 20 日理事会報告	～6 月 11 日	合計
書籍版(電子版付)	6, 553	2, 782	9, 335
うちダウンロード済み		946	946

(2) 産科編評価委員会 (田中守委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2020」頒布状況について (6 月 11 日現在)

	5 月 20 日理事会報告	～6 月 11 日	合計
書籍版(電子版付)	4, 833	1, 791	6, 624
うちダウンロード済み		783	783

(4) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長） 特になし

(5) 産婦人科診療ガイドライン伝達講習会について

毎回、新規ガイドラインを発刊後に各地方学会代表者などに集まっていただき、伝達講習会を行っていたが、今回はWEBで動画配信をしたい。会員専用ページで、拡散を防ぐためにチェック項目を設けたうえで見ていただくように考えている。

(6) 産科編・婦人科外来編 2023 について

2023 年発刊に向けスケジュールや医会との業務のすみ分けを行っていく。

4) コンプライアンス委員会（竹下俊行委員長） 特になし

5) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（榎本隆之委員長）

(1) 会議開催

令和2年度 第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	8月22日（土）【予定】
令和2年度 拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	8月22日（土）【予定】

(2) 令和元年度 拡大サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会の報告書を、各都道府県、全国の大学病院（病院長・産婦人科教授）、各都道府県医会、厚生労働省等に発送済みである。

榎本隆之委員長「この報告書を有効利用して病院長との交渉などに使っていただければと思う。」

(3) 委員交代について

本委員会委員の千石一雄先生（旭川医科大学）より、委員を退任したい旨の申入れがあった。後任の委員として、加藤育民先生（旭川医科大学）にお願いしたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 産婦人科未来委員会（渡利英道委員長）

(1) 会議開催

臨時産婦人科未来委員会	7月3日【WEB開催予定】
-------------	---------------

(2) POP2 ならびにサマースクールにかかわるリクルート活動に関して

①リクルート動画作成

費用ならびに内容を比較し、テレコムスタッフ株式会社と相談したところ、コストの面から同社の元社員でこれまで動画作成に深くかかわってきたフリーの方の紹介を受けた。未来委員会でメール審議を行い、予算および実績から依頼先を変更することとした。この方とWEBでヒアリングを行い、未来委員会が希望している内容で作成できると判断したので、これで進めたい。

②産婦人科未来相談会

POP2代替企画として臨床研修医2年目を対象としたオンラインによる産婦人科未来相談会を7月12日ならびに19日の2日間開催する(募集期間は6月1日～6月14日としていたが、19日まで延長した)。

③遠隔サマースクール(仮称)

9月(1ヶ月)を遠隔サマースクールとし、不安払拭やWEBレクチャーなど現地開催のかわりとなる企画を若手委員会で検討している。

7) リプロダクティブ・ヘルス普及推進委員会(海野信也委員長)

(1)本委員会からの意見表明「COVID-19感染拡大とそれに対する対応がわが国のリプロダクティブヘルス領域に及ぼした影響について」 [資料:リプロダクティブ1]

海野信也委員長「これはCOVID-19感染拡大を踏まえて、産婦人科医の中で現状についての認識を共有したいということと、産婦人科の中で解決できない問題は社会全体でも共有していただきたいということで、課題をお示しする目的で作成している。」

木村正理事長「本日の記者会見で、この問題についても本会の認識を示しておきたい。」

藤井知行監事「これは学会の意見として出してはどうか。」

木村正理事長「そのようにしたい。」

この意見表明を本会の意見として出すことについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

8) 医療安全推進委員会(杉野法広委員長)

(1)一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和2年5月末の医療事故調査制度の現況報告を受領した。 [資料:医療安全1]

(2)一般社団法人日本医療安全調査機構より、定時社員総会の開催(令和2年6月3日)について案内を受領した。本会から木村正理事長が出席した。 [資料:医療安全2]

木村正理事長「特に本会理事会に報告すべき事項はない。」

9) 公益事業推進委員会(小林陽一委員長)

(1)令和元年度(2019年4月1日～2020年3月31日)に会員、一般、企業から受領した寄附金について [資料:公益事業1]

小林陽一委員長「総会資料に記載されているリンベルカタログギフト社からの寄附は、分類としては個人からの寄附になる。」

(2)寄附をいただいた方の氏名・社名は機関誌に掲載するが、それについての承諾を得るため、本会ホームページに掲載されている寄附金趣意書・申込書の修正を行っている。開示方法や機関誌掲載

についてはコンプライアンス委員会や編集委員会と協議している。

小林陽一委員長「今回は寄附者氏名を機関誌12月号に掲載予定である。またホームページに掲載することについては検討中である。」

10) 子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進委員会（宮城悦子委員長）

(1) 『子宮頸がん と HPV ワクチンに関する最新の知識と正しい理解のために』の改定について、本会ホームページ掲載の準備を行っている。

IV. 令和2年度定時総会運営について

[資料：総会1]

青木大輔副理事長「代議員からの質問が3件来ている。1件目は加藤聖子副理事長、2件目は私と大須賀稔理事、3件目は木村正理事長から回答いただくことにしたい。」

加藤聖子副理事長「最初の質問には、まず緊急避妊薬がオンライン診療できるようになった経緯を説明して、初診対面の例外となるためには一定の条件が必要であるとの本会の意見を述べたい。その上で質問者の意見にある処方箋の扱いについては電子処方箋の導入や性犯罪被害者へのフォローアップなどの要望について学会としても検討したい、という回答にしたい。」

青木大輔副理事長「2番目に質問については、第72回学術講演会がWEB開催になった経緯を説明して、WEB開催の長所・短所について感じたことを説明したい。」

大須賀稔理事「学術委員会でアンケートをもとに検討したこと、その結果、全体としては好評でWEB配信を継続してほしいとの意見が多かったこと、一方でディスカッションがないことや配信の技術的問題があったこと、会場での単位とWEBでの単位の区別などもあり、完全にWEB化するという前提に立つことはできず第74回は会場開催を考えた。ただ今後ハイブリッド化の検討を行うという意見は出ていた、という回答になる。」

木村正理事長「3番目の質問には、妊産婦にも様々な考え方がいるということを示し上げて、今後はリプロダクティブエイジの男女への情報提供と対話が重要になること、リプロダクティブヘルスの概念の普及を通じて、個人の妊娠・出産だけではなく自身の将来の健康のために生活習慣に関心を持つこと、同時に次世代をはぐくみ、育てることに対して社会全体としてサポートする、という新しい生活様式に向かっての意識を向上させることなどの様々な問題の解決の提言をしていきたい、という回答になるかと思う。」

池田智明理事「3番目の質問に『続発性微弱陣痛の増加が全国で増えてはいないかの検討』という部分がある。周産期委員会では年毎の統計しか出していないが、20年以上やっているなのでその経緯を発表していく予定である。」

古山将康理事「質問者のような考え方を持つ先生は多いが、哲学論になるのは避けた方がよいと思う。」

V. その他

(1) 令和2年度議事録作成幹事予定表について

[資料：その他1]

木村正理事長「作業になるが、幹事の先生方にはよろしくお願ひしたい。」

藤井知行監事「WEBでの会議開催には長所もあるので、COVID-19の感染状況に関係なく、今後の会議の開催方式を検討してみてはどうか。」

木村正理事長「WEBでの会議開催は検討していきたい。ハイブリッド方式は費用や手間が意外に大きい面もあり、様々な観点で検討して進めたい。」

以 上